

アビイちゃんの肝臓とファッションと行動療法

アビイちゃんの肝臓の数値が、ジェットコースターのように跳ね上がった朝のこと。

食欲も元気もないアビイちゃんを見て、
「これはただ事ではない！」と、私は予約もなく病院へ駆け込んだ。待合室で長時間待つ間、アビイちゃんは「ボク悪いことした？」とでも言いたげな顔をしていた。

検査の結果は、目玉が飛び出るほどの数値。先生は静かに言う。
「肝臓は移植するぐらいだから、強い臓器なんですよ。少しぐらいなくなっても大丈夫です」
……先生、それ、全然慰めになってません。人間なら「肝炎から肝硬変コース」では？と、私の乏しい知識が勝手に走る。

原因は、やはり長期間飲み続けている「アトピカ」と「ステロイド」か、ということになった。とりあえず、現状では「アトピカ週5、ステロイド2分の1を週2」
「薬のない日を作った方がいい。単純な方がいい」と先生はつぶやき、
「よし、アトピカ、ステロイド、お休み、という巡りでいきましょう」
と最初のプランを決定された。さらに「肝臓のお薬は追加になりますが」と。これはやむをえない。

—そして一週間後。奇跡のような結果が出た。
血液検査の数値は、まるでスカイダイビングの後にパラシュートが開いたかのごとく急降下。

- AST(GOT)971 → 52
- ALT(GPT)1658 → 247
- ALP 179 → 30

つい先週は基準値の二倍どころか百倍近く跳ね上がっていたものが、一気に「ほぼ正常圏内に帰還」。先生も私も、検査結果の紙を食い入るように見つめて思わず顔を見合わせた。
「これは……すごい改善ですね！」

「アビイちゃん、肝臓のジェットコースターから無事生還です！」

診察室に安堵と笑いが広がり、アビイちゃんは「何かいいことあった？」という顔でしっぽをゆらしていた。

ここで次の服薬プランは、先生と私の合作となった。
私が「アトピカ、ステロイド、ステロイド、お休みの巡りがちょうどいい気がします」と感覚的に申し出ると、先生はしばし考えてから「よし、それでいきましょう！」と即決。そんなに尊重され

ていいのですかと、逆に不安にもなる。先生によると、ステロイドよりもアトピカが原因になっている可能性が高いから、アトピカの間隔が伸びるのがいいらしい。結局、「ダメ押しで肝臓の薬も追加です」と笑顔で終了。なんだかんだで、先生の方が一枚上手だった。

その後、アビイちゃんは少し元気を取り戻した。食欲もほぼ戻り、ただしグルーミングは再び増えてきた。足とお腹が白っぽくなってきて、「これは……ファッションチェンジ？」とすら思えてくる。

そのとき、私の脳裏にひらめいた。「服を着せればいいじゃない！」

早速注文したおしゃれな服は、翌日に届いた。アビイちゃんの金髪に映えるグレー。ところがまさかのLサイズ。ゆるゆるで、気づけばアビイちゃんは脱ぎ捨てて、シレッと歩いていた。どこに行ったか行方不明。返品もできず、幻の一着となる。

懲りずにMサイズを注文すると、今度はピッタリ。アビイちゃんも、まんざらでもなさそうに着てくれる。私との記念写真にもおとなしく収まってくれた。ところが、歩いたり飛んだりするとバランスがとれず、テーブルの下にコロロン。あわてて脱がせると「こりゃダメだわ」と即終了。猫の服作戦は、あえなく挫折した。

だが面白いことに、その後アビイちゃんは「服を着せられるぐらいなら、グルーミングやめとこう」と学んだらしい。これは行動療法の「負の強化」？まさかこんな形で大学院の勉強が役立つとは。

一方で、ぼーちゃんとビオラちゃんかというと……服を着て静かにしているアビイちゃんを一瞬クンクンしただけで、「ああ、また変なことやってるのね」と、すぐに興味を失った。猫社会の適応の早さには脱帽だ。

こうしてアビイちゃんの肝臓とファッションと行動療法の冒険は、いったん幕を閉じる。

でも、彼の目の奥には、まだ「次の一手」を秘めているような光があった。

—さて、アビイちゃんの今後はいかに。